

平成28年度事業報告

1 法人として実施したこと

① プチ・シーモックの開始

市原市馬立1930番地グラシマス馬立B号を賃借し、11月1日より作業場として利用を開始した。

② 社会福祉法人として3月1日より発足した。

③ 駐車場の整備を行った。併せて倉庫を建設した。

④ グループホーム用地として新生529番地1を取得した。

2 通常の事業の報告

① 就労継続B型

ア) 調理室

プチ・シーモック（従たる事業所）との連携も取れ、順調に繁忙期を乗り越えることが出来た。利用者の人数は減ったが、チームワークは深まり、少しずつスキルアップしている。

イ) 袋室

作業効率を図るため、日付印字機と封入機各1台を追加した。利用者が作業に携わる機会が増え、作業の幅が広がり、効率も上がった。少しずつではあるが、以前よりも作業が丁寧に行えるようになった。

ウ) 2グループ

クッキー詰め作業を中心に、秋には食品乾燥機を使用して、お菓子里に使用するいちじくの乾燥作業を行った。また、新たな作業として、シュレッダー作業を始めた。一人一人の利用者に適した作業を提供することで、作業の幅を広げることが出来た。

エ) プチ・シーモック

市原市馬立に準備期間、大幅リフォームを経て、作業所、店舗が11月1日に無事オープンした。利用者5名で製造と接客を主に活動した。また、コーヒーサーバーや店舗限定のパンをお客様へ提供した。徐々に来客も増え、地域の方々へ浸透してきている。

就労継続支援B型の平均の実利用は1日当たり

シーモック 32.7人、プチ・シーモック 4.6人であった。

② 生活介護

今年度は男性4名、女性4名の計8名の利用者でスタートした。2月より男性1名が利用を開始した。今年度は受注作業（ワッペン）の依頼がなかったため、リサイクル作業を中心に、より利用者にあったペースで活動を提供した。活動内容は、散歩、体

操等の体を動かす活動と、リサイクル作業（ペットボトル・シュレッダー）、創作活動を行った。創作活動で作成したちぎり絵を、プチ・シーモックに飾っている。お楽しみ会は主に調理とレクリエーションを行い、利用者の楽しみ、励みとなった。日帰り旅行は鴨川館へ出かけた。

生活介護の年間の平均の実利用は1日当たり5.7人であった。

③ ケアホームどんぐり

今年度は4名の入居者で推移した。空き室を体験利用の形で年間をとおして利用があった。

④ 相談支援

サービスの更新や新たなサービスを希望された時、アセスメント・モニタリングを行いサービス等利用計画書の作成を行った。28年度は計画書の作成数が、のべ72件、モニタリング実施数が、のべ71件であった。（シーモック利用者・新規利用者・法人外からの依頼）

⑤ 日中一時支援

年間報告に基づき、三和中学校でのよさこい、指導者を招いてのボッチャ、カラオケや映画鑑賞等、計25回の余暇活動を行った。ボッチャ交流大会、バリアフリースポーツ&クリスマスフェスタ等、地域のイベントにも参加した。また、夏季休暇期間に、バーベキューを行った。緊急要請による利用者の受け入れは無かった。

余暇活動の年間の平均の実利用は1日当たり28人であった。